

奉還町の歴史や文化を活かした西奉還町武士マルシェで新たな交流の場をつくる

西奉還町武士マルシェ実行委員会

活動の目的

西奉還町商店街の経営者や商店会の高齢化により、事業の持続が困難になり事業撤退や空き店舗が増加している。また、担い手不足により商店会イベントの運営や対策が鈍化している。そこで、奉還町の歴史や文化を活かしたイベントを立ち上げ新たな交流の場を作り持続することにより、商店同士の交流の活性化、商店街への新規参入の促進、新たな観光資源の形成を目的とする。運営主体は若手商店の事業主を中心とし、商店会運営の今後の担い手としての連携も図る。

活動の内容及び経過

年4回（春、夏、秋、冬）のイベント開催を西奉還町商店街内で、西奉還町商店内の若手店舗有志と学生ボランティアの運営により西奉還町武士マルシェを行っている。第五回、六回、七回は商店街内のわいわい広場で開催。八回目は場所を屋内に移し地域で活動している人や奉還町に関わりのある人、これから出店をしようとしている人との交流をより密にする奉還町ローカルサミットを開催。奉還町商店街内に期間限定で開設した奉還町IDO（村田製作所）内での武士マルシェ企画のイベントデニム屋台プロジェクトと奉還もちデザイン会議の企画を開催。実行委員会は定期的に集まりの場を設け、イベントやその他の議題について話す交流の場を持っている。それぞれのイベントへの新規店舗へのイベントの参加告知や商店街への出店誘致も積極的に働きかけている。

活動の成果・効果

イベントを継続して行っていることにより、商店街店主だけでなくイベントに興味を持った近隣の住人や学生ボランティアなどが新しく実行員会に参加し、新しいアイデアの循環が生まれた。またこのイベントをきっかけに、奉還町に興味のある人が集う集まりの場のイベントを新しく発足したことで、奉還町外の街づくりをしている人や奉還町に住みながらアーティスト活動をしている人などとの交流の場を形成することができ、今まで交流なかった人の掘り起こしの場にもなっている。奉還もちを開発したことにより、一つのコミュニケーションツールとしての役割も持ち、それをきっかけに奉還もちを求めて来られるお客様も増えている。奉還町外の企業の協力で、新たな動きも生まれたことで違うレイヤーへの認知度も高まった。今まであまり表に出てこなかった商店街の情報もわかりやすくなり、今後の新たな出店希望者への情報源としての役割も果たしている。2年間イベントを継続してきたことで、イベント



開始までなかった商店街間の交流もより密になってきている。

今後の課題と問題点

- 1) 前年度のからの継続課題として、この催しを永続定期的なものにするために、負担になる手続きを簡略化する必要がある。
- 2) 実行委員会のメンバーそれぞれが個人事業主であり、実店舗と同時運営ということもあり両立することが難しい。年々商店街内のメンバーが減っているのも問題である。
- 3) 3年目が始まるのを前に、4年目と継続するための資金繰りも問題である。
- 4) 武士カツラをかぶってマルシェを行っているが、対外的な見え方として何をしている団体かわかりにくい。
- 5) 場所をわいわい広場に固定したことで商店街を通る人は増えたがその先まで興味を持っていく人がまだ少ない。

●代表者：北島琢也 ●所在地：岡山市北区奉還町

●E-MAIL：bushimarche@gmail.com

●設立年：2015年 ●メンバー数：12名